

経営比較分析表（令和6年度決算）

和歌山県 新宮市

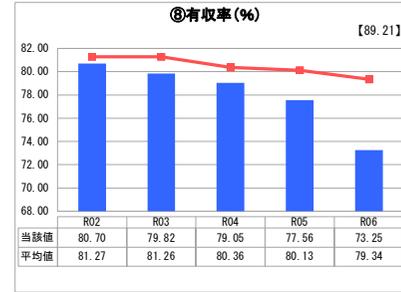
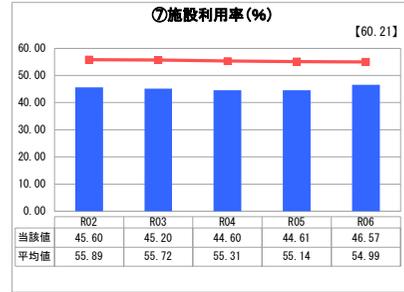
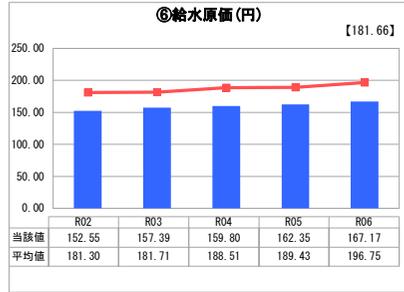
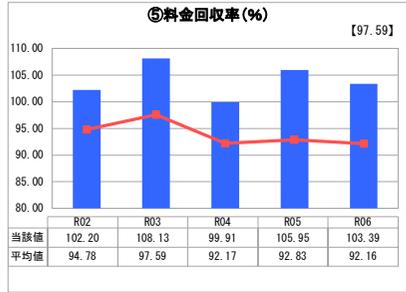
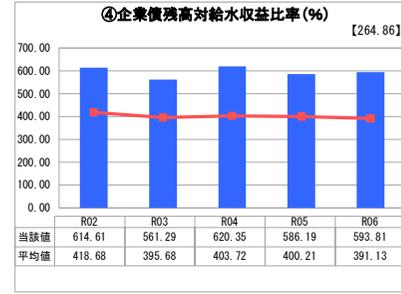
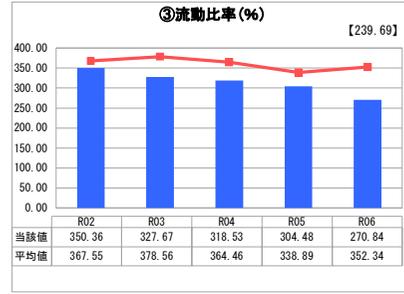
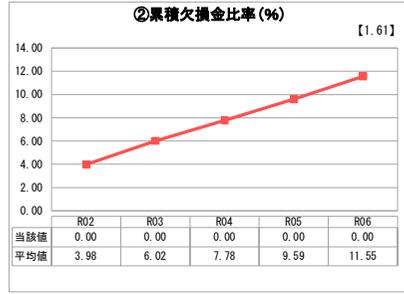
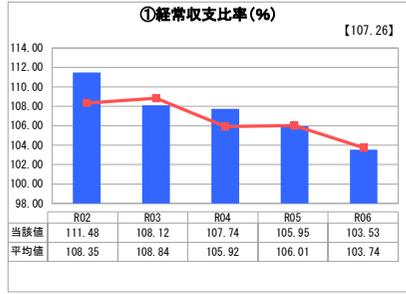
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	55.81	95.10	2,750	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
25,822	255.23	101.17
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
24,303	8.56	2,839.14

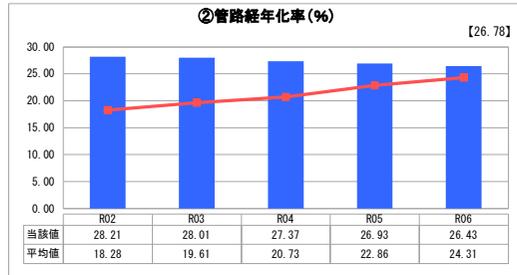
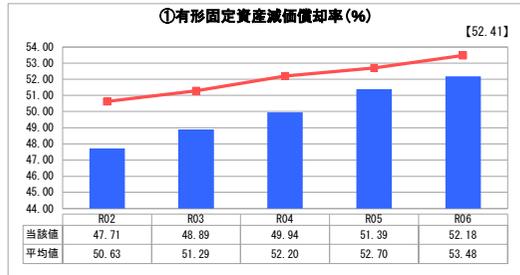
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率は単年度収支が黒字であることを示す100%を超えており、費用に合わせた収益が確保され、健全経営といえる。
- 累積欠損金比率は累積欠損金が発生していないことを示す0%が求められ、毎年0%のため健全経営であると言える。
- 流動比率は流動負債に対する流動資産の割合であり、100%以上であることが必要で、減少傾向ではあるが200%以上を確保しており、現状では問題はない。
- 企業債残高対給水収益比率は企業債残高の規模を示しているが、平均値を上回っており、料金収入に対し企業債残高が多いことを示している。現状の料金水準では今後も企業債に依存せざるを得ない状況にあり、適正な料金設定の検討が必要である。
- 料金回収率は供給単価と給水原価との関係を見るための指標であり、毎年100%を超えており、給水にかかる費用が給水収益で賄えている。
- 給水原価は有収水量1m当りの製造原価であり、平均値と比べ安値ではあるが、更なる経費削減等に取り組む必要がある。
- 施設利用率は平均値と比べ、低い数値となっているため、施設更新時に適正な施設規模を検討する必要がある。
- 有収率の減少は漏水が多いこと等が要因で、減少傾向が続き、平均値を下回っている。有収率の向上は経営の安定化につながることから、今後も漏水調査等の施策を強化する必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率は資産の老朽化の度合いを示しており、年々上昇傾向にあるため、更新が必要な施設が増加していると判断される。平均値よりも低い水準にあるが、施設更新時の財源確保を検討する必要がある。
- 管路経年化率は管路の老朽化度合いを示しているが、平均値を上回っているため、計画的で効率的な管路更新に取り組む必要がある。
- 管路更新率は各年度における更新した管路延長の割合を示すもので、管路経年化率の状況からも判断されるとおり、今後も更なる経年管の更新の促進に取り組む必要がある。

全体総括

本市の上水道は昭和7年に通水しており、施設の老朽化が進行しているのが現状である。市の人口減少等により使用水量及び給水収益が減少しており、近年経営が厳しくなっている状況にある。

経営の健全性・効率性については、「企業債残高対給水収益比率」が平均値を上回っており、今後とも起債の抑制に努める必要がある。

老朽化の状況については、各指標とも施設の老朽化が進行していることが示されており、今後も施設更新等に取り組む必要がある。それと同時に、施設更新等を検討した場合、物価高騰による費用の増加も考慮した財源の確保が必要であることから、適正な料金設定について、引き続き検討を行い、今後は施設老朽化対策をはじめ、水道事業に携わる担い手の確保、投資のあり方や施設更新の優先順位について、更なる検討が必要である。